

2019年3月19日 どんぶり勘定について

※一言要約： 経営には、どんぶり勘定は弱点です。

どんぶり勘定とは、細かく計算などをしないで、おおまかに金を出し入れをすること。昔、職人などが、腹掛けのどんぶりから無造作に金を出し入れして使ったことからいうとのこと。（出典 小学館デジタル大辞泉）

会社の経営では、どんぶり勘定、どんぶり経営では、困ってしまいます。中小企業の経営においては、どんぶり勘定がとて多く、これこそが中小企業の根本的な問題点であります。「数字は苦手だ」と、お金の管理を経理の担当者や奥さんに任せきりの経営者の方も少なくありません。

無借金であれば、銀行の通帳残高だけを見ていればいいのですが、借入れがある場合はそうはいきません。銀行の預金残高だけに基づくどんぶり勘定では、現状の経営状態を正しく把握できず、経営を見間違えて、破綻に導くリスクもあります。

経営とは、自社の商品やサービスを世の中に提供・貢献し、その対価を頂くものです。どれだけ世の中に貢献できているのか、どれだけお客様に満足いただいているのか、どれだけ自分の想いが実現したのか、それは結果として決算における数字で表されます。そしてお金は経営における血液のようなもの。それが無くなってしまったら経営は続けられないですし、元気に動き回るためには十分な量を常に確保しておかなければなりません。

ですから、経営において儲けの仕組みや資金の流れという数字を理解することは、経営者にとっては重大問題なのです。自分自身で理解し、コントロールしていくべきものなのです。